

平成27年度金銭教育指定校

実績報告書



平成28年3月

米子市立和田小学校

1 本年度の取り組み

5年生は、自分の意見に自信が持てず、発表を苦手としている児童が多い。そこで本年度は、だれもが自分の意見を持ち主体的に学習に取り組めるよう、ユニバーサルデザインを意識した授業の構造化とICTを活用した分かりやすい授業を心がけた。また、ペア対話やグループ学習、グループディスカッションなどを多くの場面で仕組み、自分を表現する機会を増やしていくように取り組んだ。

2 授業研究

○題材名「情報産業とわたしたちの暮らし」

<単元の目標>

- 放送などの情報産業が国民の生活に大きな影響をおよぼしていることや、情報産業を通じた情報の有効な活用が大切であることを理解するとともに、情報産業の発展に関心を持ち、情報を有効に活用しようとする。
- 日本の情報産業の様子から学習問題を見出し、各種の資料を活用して必要な情報を集めて読み取ったことを、ノートなどにまとめるとともに、放送などの情報産業と国民生活とを関連づけて思考・判断したことを適切に表現する。

<単元について>

本単元は、社会科学学習指導要領の内容(4)ア「放送、新聞などの産業と国民生活との関わり」に位置付けられ、児童にとって身近な「放送」を単元前半で設定した。現在の情報産業・情報化した社会の様子と国民生活との関わりについて理解し、情報に対して適切に判断し、活用する力を身につけさせていく。単元後半では、金融教育の「経済や金融のしくみに関する分野」で目標の「自分の暮らしと関連づけながら、社会で起こっている問題に関心をもつ」に基づき、料金面や普段の利便性などが原因で起こっている新聞離れの現状を扱う。東日本大震災発生時の新聞やラジオの様子、新聞社で働く方や被災者の方々の思いを知ることなど通して、身の回りの問題に気づき、ものの価値について考えることができる単元である。

<児童の実態>

本学級の児童13名(男子6名、女子7名)は、これまでの学習「わたしたちの食生活と食料生産」や「わたしたちの生活と工業生産」を通し、農業や漁業、工業に従事する人々が様々な努力や工夫によって、わたしたちの生活を支えていることを理解している。しかし、わたしたちの暮らしを取り巻く様々な情報に関して「誰かが発信している」ということはつかんでいても、その情報が届けられるまでに、通信などの産業に携わる人々がどのような工夫や努力を行ってきたか、なぜそのような工夫を行っているのかということについては知らない児童がほとんどである。これまでの学習と関連付けながら、情報について多面的にとらえ、社会的事象に主体的に関わり、情報を自分達の生活に有効に活用していこうとする態度を養っていきたい。

<指導にあたって>

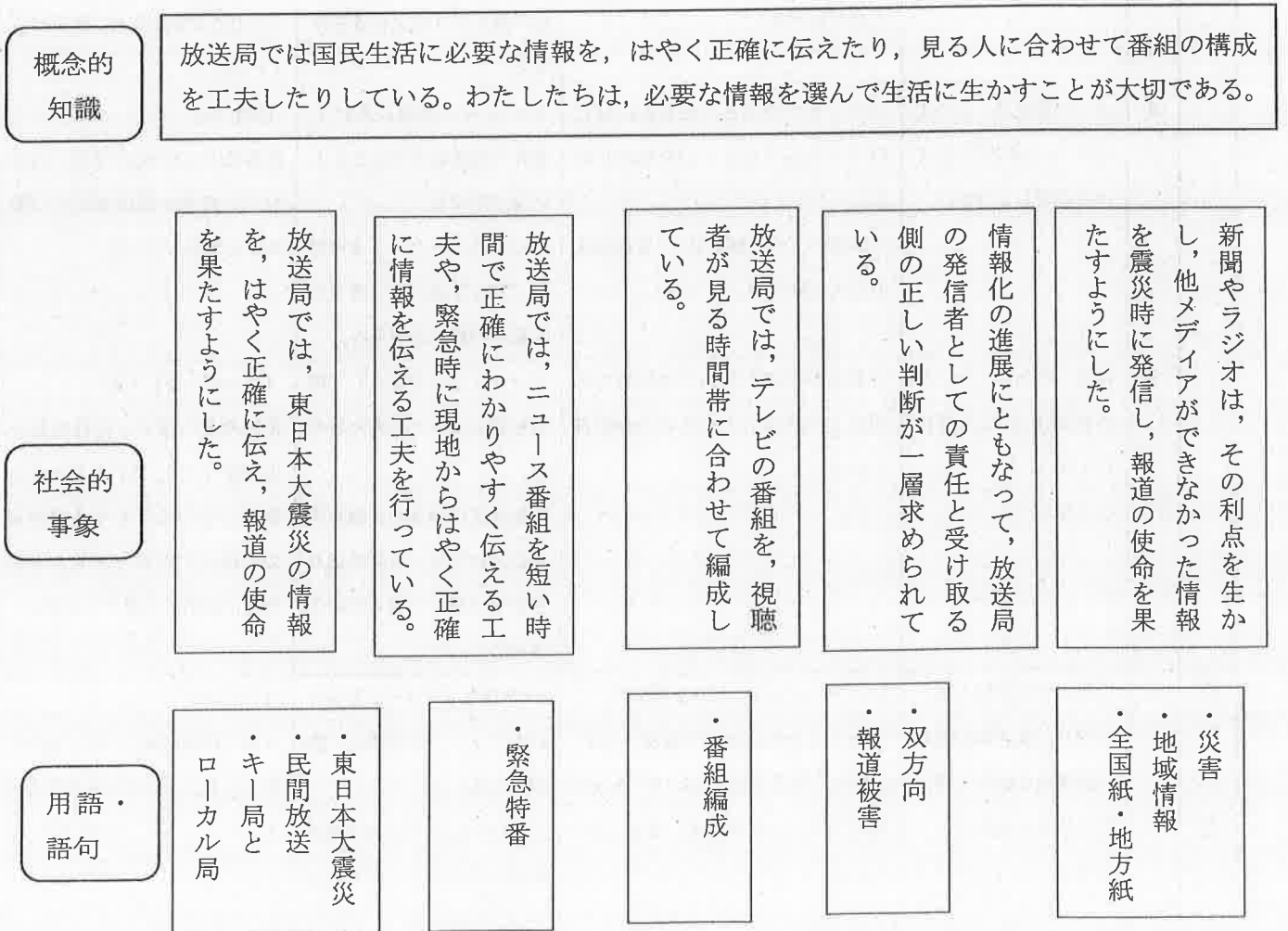
指導にあたっては、情報をより身近に感じられるように、生活に密着したテレビと新聞の情報活用などを取り上げて、学習に取り組ませていく。特に、たくさんの情報伝達手段の中から、最も身近であるテレビ番組の作り方などを取り上げることで、情報への興味や関心を高めるだけでなく、自分の体験も想起させることができると思う。

ジグソー法の手法を取り入れ、新聞離れの現状やインターネットと新聞の特徴・料金比較、震災時に果たした新聞の役割などについて、主体的・積極的に学習に参加する環境を作り、新聞の役割や意義・必要性などについて多面的にとらえることができるようにする。また、自分の考えをまとめ、表現する過程を通じ、思考力・判断力・表現力やコミュニケーション能力、問題解決能力の向上を図っていききたい。学習のまとめの段階では、もし、自分が新聞記者なら新聞をより良くしていくためにどんな新聞を作りたいか考え、情報のよき受け手、送り手となるような資質を育てていきたい。

○ 評価規準

ア 社会事象への 関心・意欲・態度	イ 社会的な 思考・判断・表現	ウ 観察・資料活用 の技能	エ 社会事象について の知識・理解
<p>①大震災発生時の放送局や新聞を通して、情報を提供している産業と国民生活の様子に関心を持ち、意欲的に調べている。</p> <p>②情報産業の発展に関心を持ち、情報を有効に活用しようとしている。</p>	<p>①放送などのマスメディアを通して情報を提供している産業と国民生活との関わりについて、学習問題や予想、学習計画を考え計画している。</p> <p>②情報産業と国民生活を関連付けて、情報産業の働きは国民の生活に大きな影響をおよぼしていることや、情報の有効な活用が大切であることを考え、適切に表現している。</p>	<p>①各種の資料やインターネットなどを活用し、日本の情報産業について必要な情報を集め、読み取っている。</p> <p>②日本の情報産業について調べたことをノートにまとめている。</p>	<p>①放送などの産業と国民生活との関わりを理解している。</p> <p>②情報産業が果たす役割の大切さと情報の有効な活用の大切さを理解している。</p>

○ 知識の構造図



○ 学習指導計画（全7時間）

次	時	本時のめあて	○主な学習活動	・指導上の留意点	☆評価
つかむ	1	放送局では、東日本大震災の情報をどのように伝えたのでしょうか。	○大震災が発生したとき、放送局がどのようにして情報を伝えたかを発表する。 ○はやく正確に情報を伝えることができたわけを話し合う。	・教科書の写真や本文をもとにして放送局の様子をとらえさせる。 ・地震に対する備えや使命感に着目し、話し合わせる。	【関・意・態】ア① 東日本大震災発生時の放送局の放送を通して、情報を提供している産業と国民生活の様子に関心を持ち、意欲的に調べている。
	2	放送局ではどのような放送をしようとしているのかを考え、学習問題をつくり学習計画をたてよう。	○情報を伝える人の工夫や願い、もっと調べてみたいことなどを考え、学習問題をつくる。 ○学習問題について予想し、学習計画を立てる。	・伝える側と受け取る側の立場から学習問題を考えさせる。	【思・判・表】イ① 放送などのマスメディアを通して、情報を提供している産業と国民生活との関わりについて学習問題や予想、学習計画を考え表現している。
調べる	3	放送局ではどのようにニュースを取材し、放送しているのでしょうか。	○テレビのニュース番組がどのようにしてつくられているかを調べる。 ○緊急時に放送局で心がけていることを調べる。	・教科書の記述に加え、放送局のホームページを活用する。 ・普段の放送と緊急時の放送の違いや共通点に着目させる。	【技】ウ① 教科書のインタビュー資料や放送局のホームページなどを活用し、日本の情報産業について必要な情報を集め、読み取っている。
	4	テレビ番組は、どのようにして決められているのでしょうか。	○テレビで放送させるものにはどのようなものがあるかを発表し合う。 ○新聞のテレビ欄を見て、番組編成の工夫を調べる。	・ニュース番組以外にも様々な放送番組があることに気づかせる。 ・「学び方コーナー」を参考に「知る番組」と「楽しむ番組」の編成を考える。	【知】エ① 番組編成の工夫などから、放送などの産業と国民生活との関わりを理解している。
	5	わたしたちは、テレビの情報をどのように生かせばよいのでしょうか。	○自分や家族がテレビの情報をどのように活用しているのかを発表し合う。	・マイナスの影響として報道被害についても考えさせる。 ・編集長の林さんの話を手がかりにして、情報の送り手と受け手の心構えを考えさせる。	【思・判・表】イ② 情報産業の様子と国民生活とを関連付けて、それらが大きく影響していることや情報の有効な活用が大切であることを考え、適切に表現している。
まとめる	6	これまでの学習を振り返り、放送局の働きや放送局が伝える情報の生かし方をまとめよう。	○ノートを見て、これまで学習してきたことを振り返って発表し合う。 ○情報の生かし方について、自分の考えをノートにまとめ、発表し合う。	・「学び方コーナー」を参考にノートを確認し、整理させる。 ・「メディア・双方向・報道被害」などのことばを使ってまとめさせる。	【技】ウ② 日本の情報産業について調べたことを、ノートにまとめている。

広げ る	7 本 時	新聞をより良くして いくためには、どんな ことが必要か考えよ う。	○新聞についての現状、料金、役割 などを話し合う。 ○新聞をより良くしていくために はどんなことが必要か話し合う。	・ジグソー法で学習する ことで、新聞の役割や意 義・必要性などについて 多面的にとらえること ができるようにする	【思・判・表】イ② 新聞の役割や意義・必要性 などについて考え、表現し ている。
---------	-------------	--	--	--	---

○ 金融教育の目標と内容

○ 経済や金融のしくみに関する分野

- ・自分の暮らしと関連づけながら、社会で起こっている問題に関心をもつ。

○ 本時の学習（7/7）

(1) 目標

- ・新聞の役割を理解し、新聞をより良くしていくためにはどんなことが必要か考える。

(2) 準備物

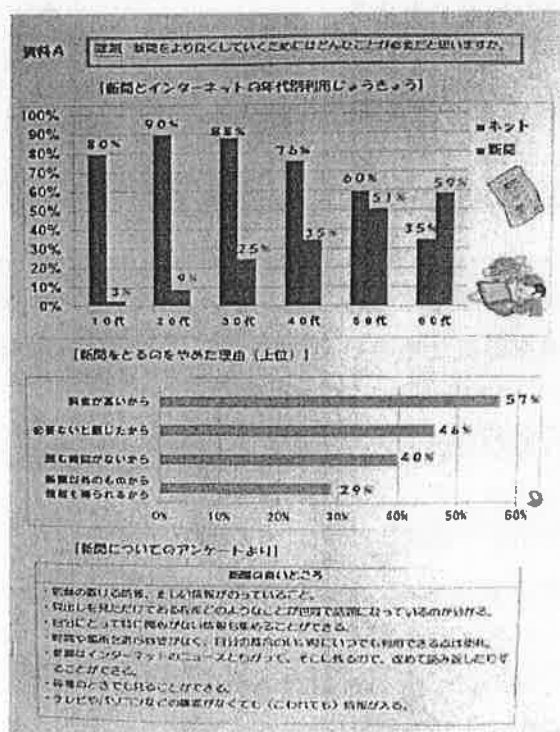
アンケート結果、エキスパート活動の資料、ワークシート

(3) 学習過程

学習活動	教師の発問 (○) 児童の反応 (・)	指導上の留意点 (◆) 評価 (★)
1 本時の学習課題を知り、学習の見通しを持つ。	○メディアについてのアンケート結果を見てみましょう。 ・テレビからたくさん情報を得ている。 ・新聞はあまり見ていない。 ・新聞は、おもしろい内容があるともっと読むと思う。	◆アンケート結果を示し、自分達の新聞に対する考えを振り返れるようにする。
もし自分が新聞記者なら、どんな新聞を作りたいですか。		
2 エキスパート活動で話し合う。	資料を読み取りまとめる。 A 新聞・インターネットの利用状況 新聞をとるのをやめた理由 新聞についてのアンケート ○資料Aから分かったことをまとめよう。 ・新聞は若い人があまり読んでいない。 ・新聞料金がなくてやめる人が多い。 B 情報を得るための料金比較 新聞・インターネットの良さ ○資料Bから分かったことをまとめよう。 ・新聞は他のメディアと比べ料金が安い。 ・新聞は正しい情報を集めることができる。 ・インターネットは、たくさんの情報を簡単に手に入れることができる。 C 東日本大震災時の新聞やラジオの役割 被災者や新聞記者の思い	◆資料から分かることや学習課題につながる考えがまとめられるように、書き込みができるワークシートを用意する。 ◆資料から読み取ったことを理由をつけて発表できるように考えをまとめさせる。

<p>3 ジグソー活動で話し合う。</p>	<p>○資料Cから分かったことをまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・停電のとき情報を伝えようとかべ新聞を作った。 ・被災者の方々を勇気づけた。 <p>○それぞれのグループの考えを話し合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞のよさは・・・ ・新聞は高くても必要 <p>○もし自分が新聞記者なら、どんな新聞を作りたいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞の大切さを分かってもらいたい。 ・若い世代にも読んでもらえる内容にする。 ・安くする工夫をする。 ・正しい内容をしっかり伝えたい。 ・読者が知りたい内容をのせたい。 	<p>◆考え方の違いや共通点に注目させながらお互いの意見を交換させる。</p> <p>★新聞の役割や意義・必要性などについて考え、表現している。【思・判・表】(ワークシート)</p>
<p>4 クロストーク活動で話し合う。</p>	<p>○それぞれの班の考えを話し合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞は安くないけど、震災時などに必要。 ・若い世代にも読んでもらえる工夫が必要。 	<p>◆学習の前と後で、新聞に対する考え方がどのように変わったか気づけるようにさせる。</p> <p>◆全体での意見が出しやすいように机の配置を工夫する。</p>
<p>5 今日の学習のまとめをする。</p>	<p>○今日の学習でどんなことを感じましたか。</p>	

○資料



資料B 新聞 新聞をより深くしていくために子どもたちが何を必要としているか。

【情報を得るために必要料金】

必要料金	できること
新聞(地方紙) 2260円(印刷代) (送料:2260円)	・読む ・読む
インターネット (パソコン) 1450円(電話料金) (合計:2710円)	・調べごと ・メール ・画像 ・文書作成 ・画像閲覧 ・ゲーム ・情報発信 など
インターネット (スマホ) 1700円(電話基本料) 5000円(電話基本料) (合計:6700円)	・電話 ・メール ・調べごと ・写真撮影 ・画像共有 ・ゲーム ・情報発信など
インターネット (ゲーム機) 1260円(電話料金) (合計:1260円)	・ゲーム ・メール ・調べごと ・情報発信 など

※インターネットは、協賛の会社・プランを基に表示しています。

【アンケートより】

新聞の良いところ

- ・信頼の置ける情報、正しい情報がのっていること。
- ・見出しを一目でわかる程度のことや写真で内容がわかる。
- ・自分にとって特に興味がない新聞でも読む必要がある。
- ・新聞やネットを調べるときは、自分の都合のいい時いつでも見られる。
- ・新聞はインターネットのニュースと違って、そこに掲載するので、改めて読み直したりすることがある。
- ・押さえるときも見るることができる。
- ・テレビやパソコンなどの画面がなくとも(じわじわ)見ることがある。

インターネットの良いところ

- ・他のメディアと比べ、圧倒的に情報量が大きい。
- ・検索は検索キーワードを入力するだけでできる。
- ・その日の出来事など、深く掘り下げることができる。
- ・世界中つながることができる。
- ・検索も発信できる。

資料C 新聞 新聞をより深くしていくために子どもたちが何を必要としているか。

【東日本大震災のときの新聞】

2011年3月11日に発生した東日本大震災で、新聞が本につかたられたい日曜日は、読者のみなさんの助け、手紙のおかげで新聞を発行することになった。この日は、停電のため、テレビ・パソコン・携帯電話など、ほぼ全ての通信手段がなくなった。第1号はラジオの電報とラジオの電報をのせ、紙の第2号は、読者たちがみんなに読んでほしい自分の情報をもたせ、電報では電報の電報をのせ、少しでも手紙をもってもらえ、全国からよせられた支援について詳しくのせた。この日新聞は、読者のみなさんの助けとなり、人々を助け続けた。

読者の思い	新聞記者の思い
<ul style="list-style-type: none"> ・ライフライン(水・電気・ガス・電話など)の断絶性、断絶のさすなを感じた。 ・各メディアが情報を伝達する役割を担ってほしい。 ・被災地がほしい。新聞が伝えたい、手紙の断絶などに助けられた。新聞や電報で被災者の声、助けを伝えていると、さすなに。 ・少しでも多く情報がほしい。 ・被災者のメッセージが届けられ、とてうれしく感じるという力がほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・被災地がほしい。断絶はあっても、非常時、新聞を出すのしかたの断絶、被災地にこそ出さず、被災地の状況がほしい。 ・情報がほしい。断絶があっても、被災者の声、助けを伝えていると、さすなに。 ・被災者の声、助けを伝えていると、さすなに。 ・被災者の声、助けを伝えていると、さすなに。 ・被災者の声、助けを伝えていると、さすなに。

○授業の様子



○金融教育の視点から

社会科は、自分達の生活と関わりのあるものを扱うことも多く、様々な観点から金融教育を推進しやすい教科の一つである。この授業では、児童にとって身近ではあるが、あまり必要性を感じていない新聞について取り上げ、新聞の必要性を感じたり新聞離れの現状に関心を持ったりするようにした。新聞の料金を他のメディアと比べることで、新聞を作るためには、情報収集・紙・インク・印刷・配達・運搬など、今まで考えてもみなかった費用がかかっていることに気付くことができた。また、料金の単純な比較ではなく、利便性や価値についても比較した上で、「新聞は高いと思うか安いと思うか」について話し合った。この活動は、ものを値段だけで判断せずに、ものの価値もあわせてで判断する大切さに気付かせてくれるものとなった。

○成果と課題

成果

この授業では、アクティブラーニングの手法として、ジグソー法を取り入れた。ジグソー法では、資料を読み取る力、読み取った内容を伝える力、それぞれの考えをまとめる力、集まった考えからさらに新たな考えを導き出す力など、様々な力を必要とする。一人一人がしっかりと考えを持ったり伝えたりと、主体的に学習に取り組むことができた。また、自作の3つの資料を作ったことで、新聞の価値や必要性を児童が気づけるように教材研究を深めることができた。

課題

資料の作成は、適切な情報量やどこかの資料に課題の解決につながるヒントがかたよらないようにするなど、気をつけなければならないことがたくさんあり、授業の流れが大きく変わってしまうことを実感した。また、クロストークでは、それぞれのグループの意見を紹介し合って終わってしまいがちである。そこから新たな考えが生まれるように、話を広げたり深めたりする視点や切り口やキーワードなどを指導者が持っておき、児童にそれを気づかせることが大切である。

しおかぜ学級 金銭教育のまとめ

指導者 三代 早苗

1 はじめに

しおかぜ学級では、金融教育について以下のようにとらえている。

- ・お金の種類や価値がわかり、生活の中で使うことができるようになること。
- ・お金を扱う上で大切な、基礎的なコミュニケーションを身につけること。

2 お金の種類や価値がわかり、生活の中で使うことができるようになるために

お金は、1円玉は1個を1と数えるが、10円玉は1個で10、100円玉は1個で100となり、見た目には1でしかないのに10のまとまりや100のまとまりになっているため、数の概念の理解が難しい子や量感がとらえにくい子にとっては、とても難しいものである。

しかし、生活の中では必要不可欠なものであるため、お金は色や大きさで種類が違ふこと、それぞれが数のまとまりであり、まとまりの大きいものに価値があることを理解し、使えるようにしなくてはならない。そこで、3年女子1名については、言われた金額を正しく出すことができるように学習している。上の写真のように、文章問題で「いくらですか」と聞かれた場合は、答えの金額をお金で表わすようにしている。保護者にも協力していただき、自分で使えるお金を与え、家族で買い物に行き自分で支払いをする練習をしており、10とび、100とびで数えながら正しく出せるようになってきている。



3 お金を扱う上で大切な、基礎的なコミュニケーションを身につけるために

店で買い物をする際、お金の受け渡しがいかにうまくいかず落としてしまったらどうなるだろうか。お金が転がり見えなくなってしまうたり、お金を拾っていて時間がかかってしまったりと、店側も客側も困るだろう。お金を払う、お釣りを渡す・・・といった何気ないやりとりも、自閉症・情緒学級の子ども達にとっては難しいことであり、お金を扱うことができるように基礎的なコミュニケーションの方法を学習する必要がある。

1年女子1名は、毎朝、職員室に健康観察表を取りに行く係になっている。「失礼します」など出入りするときの挨拶を繰り返すことにより、自分から言うことが増えてきている。学習中には、課題が終わったら「できました」と報告し、教師へ提出に来る練習や、プリントやドリルなどを相手の方に向けて確実に手渡しする練習をしている。特に、提出物を確実に手渡しするためには、相手と同じものに注目することが必要である。シングルフォーカスの子ども達は、相手と同じものを見るが大変難しく、相手が受け取る前に手を放してしまうために提出物が落ちてしまうこともしばしばである。

タオルを二人で持ちながら一緒にジャンプしたり、なべなべ底抜けをしたりするなど、楽しい運動を取り入れながら、確実に手渡しすることへとつなげていけるように取り組んでいる。

1 はじめに

本学級は特別支援学級（知的学級）であり、6年女児と2年男児の2名の児童が在籍している。日常生活のなかで役立つものを目指して、生活単元学習として様々な活動を組んで行っている。お金の使い方を知ったり、買い物の上手な仕方を身につけたりすることは、本学級の児童にとって将来役に立つものであると考える。

2 実際の取り組み

6年生児童と2年生児童の買い物やお金の使い方の実態は、かなり開きがあった。6年生児童は、家の人と買い物に行ったりすることも時々はあるが、自分でお金を払ったり、自分一人で買い物をするような経験が少ない。地域にも店がなく、自分のおやつを買いに行ったりする経験もない。また、2年生児童は、おうちの人と、買い物には行くが、自分でお金を払ったこともなく。お金についての知識がほとんどない状態であった。そこで、それぞれに合った学習の目標を立て、学習を進めていった。

6年生児童は、4年生の算数で見当をつけたわり算の仕方を学習しているので、買い物をしていただきたいいくらぐらいになるのか、持っているお金で足りるのかということを経験した。また、ひとつずつの商品の大まかな値段を考え、合計がいくらぐらいになるか見当をつける力をつけていった。また、お金の払い方にもいろいろあること、おつりはどのくらいあるかということも予想することができた。合わせて計算機を積極的に使い買い物に役立つようにしていった。児童は、消費税についても理解ができていなかったため、8%の消費税がどのように計算されるのかも学習していった。

2年生児童は、数の概念がまだ十分に身につけていないので、硬貨やお札の種類から始まりの5円は1円玉が何個分か、100円は10円玉が何個かなどの基本的な学習をしていった。また、品物の値段に対するお金を生活まだまだ、買い物を実際にできるという段階にはないが、継続して力をつけていきたい。



3 おわりに

お金を使って買い物をすることは、生活する上で必要不可欠のことである。このような活動を続け、お金を使って上手に買い物ができ、自立して生活をしていけるように、とり組んで行きたい。また、算数や数の概念もお金を通して考えると、身につけやすいこともあるので、どんどん活動を増やしていきたい。

1年生 かえますか かえませんか

指導者 塚大 美香子

はじめに

子ども達は算数科の学習で1桁もしくは簡単な2桁の足し算・ひき算を学習している。また、「おおいかず」の学習で100までの数を学習してきた。しかし、子ども達が経験する買い物では、買う品物が1つとは限らず、100円以上の計算を必要とするものが多いと考える。「かえますかかえませんか」の学習では、簡単な見積もりで判断することの便利さを感じとることで、子ども達にとって既習学習と普段の身近な買い物をつなげる機会になると考えた。これを機に、子ども達自身が行う買い物の際に予算内で簡単な見積もりをして買い物をしていくきっかけになればと思い、「かえますかかえませんか」の学習を行った。

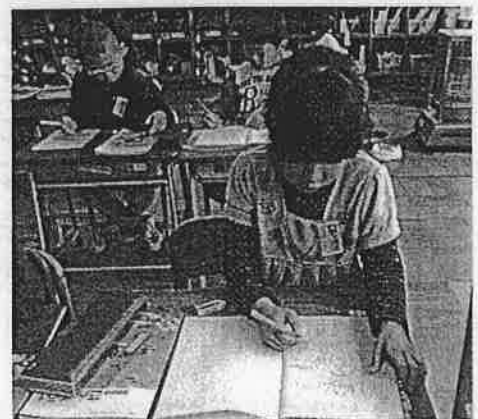
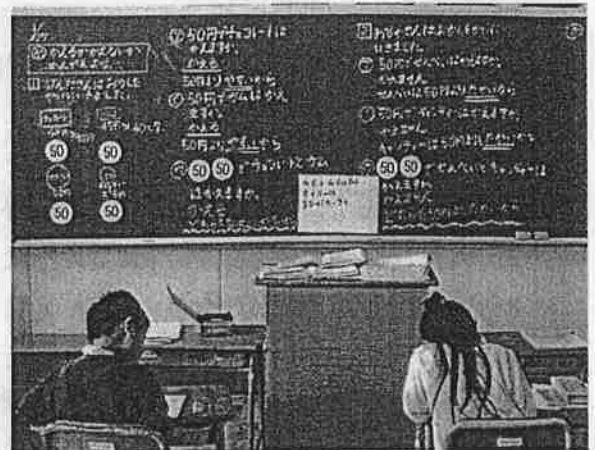
実際の取り組み

まず、50円で48円のチョコレートや47円のガムが買えるか買えないかを考え、50円玉2つでチョコレートとガムが買えるかを考えた。

さらに、50円で52円のせんべいや55円のキャンディーが買えるか買えないかを考え、50円玉2つでせんべいやキャンディーが買えるかを考えた。

まず、子ども達から「消費税はつきますか?」「消費税ってなんですか。」と質問があり、子ども達の中から予算を考えるうえでの消費税についての関心が高まった。また、「47円は50円より小さい」と表現する児童が多く、「安い」という言葉を使うことを教えた。50円で48円のものや47円のものを買えるかを考えたとき、既習学習を利用し、「48を40と8、47を40と7」と分解して計算し見積もりを行う児童も見られ、様々な見積もりの仕方があることも知ることができた。

学習を終えた子ども達が、「お買い得」「半額」などの言葉を口にし、値段や割引の計算についての興味も持ち始めていた。



おわりに

子ども達の中から「安い」という言葉がなかなか出てこなかったことから、あまり自分の判断で買い物を経験していない実態をつかむことができた。身近に店などが少ない和田の地域で育った子ども達が、自分の判断で買い物をすることに自信が持てる学習となった。

◎お買い得のつかりました
それとガムも買えました!

お買い得のつかりました
買いました。

乗り物に乗って遠くへ行こう！～2年生生活科より～

指導者 桑原 敏博

はじめに

2年生は、1学期の生活科「どきどきわくわくまちたんけん」の学習で、自分たちの行きたい場所や会ってみたい人を決め、グループごとに活動の計画を立て、和田地域のまち探検を行った。児童はこの活動を通して、自分たちの生活は地域で生活している人々や様々な場所と関わっていることに気づき、また、相手や場に応じた適切な行動や安全な行動についても進んで考えることができた。

この1学期の学習も踏まえ、2学期の生活科「みんなで行こうよつかおうよ」の学習では、身近な公共施設や公共交通機関を安全で正しく利用することができるようにするために、市の中心部にある米子市立図書館へ路線バスに乗って出掛ける計画を立てた。

実際の取り組み

自分たちの住んでいる和田地域から少し離れた米子市立図書館へ出掛けるためには、路線バスに乗って行かなければならない。そこで、まず、バスを利用する際のルールやマナーを子どもたちに知らせ、行き先までの運賃やバスが来る時刻、乗車の際、整理券を取ることなどについて、子どもたちとともに確認した。また、バスを降りるときはボタンを押して知らせること、自分でお金と整理券を払って、バスの前側から下車することなども伝えた。

自分一人でお金を払ってバスに乗るのは初めてという2年生がほとんどであったが、どの子どもも安全に気をつけ、ルールやマナーを守りながら、自分できちんとお金を払ってバスに乗ることができた。また、降車の際には、運転手さんに気持ちのよいあいさつをして、バスから降りることができた。



おわりに

今回の「みんなで行こうよつかおうよ」でのバス乗車の学習を通して、2年生の子どもたちは、公共施設や公共交通機関の安全な使い方について進んで考えることができた。また2年生ながらに、お金の大切さや物の価値などについても進んで考えるきっかけとなった。

時代が豊かになった今、お金の大切さや物の価値に気づきにくい子どもたちが増えてきているように感じる。わたしたちの生活は、いろいろな場面でお金がかかることがあるということを、2年生という小さい学年から気づかせるような指導をこれからもしていきたい。



買えますか？買えませんか？ ～3年生校外学習でお買い物～

指導者 田澤 理恵

はじめに

3年生の算数の小単元で「買えますか？買えませんか？」という学習を行うようになっている。これまでに児童は、2年生の頃に「100円玉5枚で98円のパンを5つ買えるかどうか」という問題について、細かな計算をすることなく、判断することや買えるわけを説明する学習をしてきた。さらに、3年生になり3桁や4桁のたし算やひき算について学習をしてきた。これまでの学習をもとにして、持っている何百円で、数百円前後の品物を複数個買えるかどうか簡単な見積もりによって判断でき、さらに説明ができるように学習を行った。しかし、買えるか買えないかを瞬時に判断できない児童もいた。

児童に尋ねてみると、実際に自分でレジに行ってお金を支払うという経験をしたことがある児童は少なく、体験してみることが大切であると感じた。

実際の取り組み

社会科の「はたらく人とわたしたちの暮らし」という学習で、スーパーマーケットに見学に行くことにし、その中で買い物体験をすることを計画した。その際、自分の好きなものを買うのではなく、家庭の協力を得て、家族の人から頼まれたものを買うこととし、さらに金額の上限を300円と設定した。児童は、頼まれた品物と家族の人から聞いたおおよその値段をメモし、校外学習に臨んだ。



児童は、店内ではりきって品物を探し、レジに並んだ。その様子は、とても誇らしそうに楽しんでいるようであった。しかし、品物の値段が200円以内のものであるのに対し、持っていた300円をそのまま手渡す児童が数名いた。

おわりに

買い物体験は、児童にとってよい経験となったと感じた。また、教師にとっても実際の体験がいかに大切であるかを痛感する学習となった。200円以内の品物に300円を出す児童がいたことは予想外であった。算数の学習でいくら頭で考えてみても、実生活に生かされないのであれば困る。お金をいくら出せばいいのか、おつりはだいたいどれくらいになるのかなどの見当をつけられるようにしていかななくてはならないと感じた。

今後も体験を多く取り入れた学習を行いたいと思う。

住みよいくらしをつくる～4年生社会科より～

指導者 浜田 成三

はじめに

4年生は、社会科の「住みよいくらしをつくる」では、住みよいくらしを支えているしくみや人々の働きに関心をもつことをねらいとして学習を進めた。自分たちの健康で安全なくらしを支えるものとして、電気・ガス・水道・ごみ処理などに気づかせ、そこで働く人の思いや施設の目的などに目を向けさせた。

実際の実践

＜水道局を見学して＞

家庭で使用している水の量を調べ、ペットボトルや牛乳パックに置き換えることによって視覚的に捉えることができた。実際に、水道局を見学して、みんなが使用する大量の飲料水を確保するために、いろいろな対策や工夫がなされていることに驚いていた。また、施設設備に関わるお金も非常に高額で、みんなが納める税金が使われていることを知り、水の大切さと無駄にしてはいけないことを改めて知ることができた。



＜リサイクルプラザ・ごみ焼却場を見学して＞

家庭でごみを出すとき、可燃物・不燃物・再利用可能な物に分別することはよく知っていた。子どもたちのごみの処理やエコ活動に対する意識は高いように感じた。

しかし、実際に、リサイクル工場やごみ焼却場を見学してみると、その量の多さに驚いていた。毎日運ばれてくる大量のごみを大型の焼却炉で燃やしたり、たくさんのリサイクル可能なものを人の手で仕分けをしたりしているところを見学し、自分たちの生活を支えてくれる人に感謝する気持ちをもったり、ごみの減量やリサイクルなど自分たちに協力できることを理解したりすることができた。



おわりに

この学習を通して、自分たちの健康で安全なくらしを支えているしくみや人々のはたらきを知ることができた。くらしを支えている人に対しての尊敬や感謝の気持ちをもち、自分でできることがよりよい環境を守ることや節約につながることを理解することができた。

わたしたちの生活と政治～6年生社会科より～

指導者 安達のり子

はじめに

6年生は、社会科「わたしたちの生活と政治」で、自分たちの暮らしと政治の関わりを学習した。児童は、政治がよりよい社会を目指し、人々の願いを実現するために進められていることや、そのための費用として税金が使われていることを知った。また、将来、選挙権を持ち、自分たちが議員を選ぶことで政治に関わっていくことも理解した。こうした、自分たちと政治との関わりを学習したうえで、税金に関する学習に取り組んだ。

実際の取り組み

〈租税教室〉



税務署の職員の方と税理士の方を講師に招き、租税教室を実施した。児童は、まず、鳥取県の様々な公共施設の建設・維持に使われる税金の額を知った。その上で、税金が様々な公共事業や施設設備の建設・維持に使われることを振り返り、税金を「教育」「道路」「安全」「その他」に配分する活動を行った。

児童は、これまでの学習やニュースを通して、日本に様々な災害が起こったり、国土の防衛についての議論がなされていたりすることを知っている。そのことを思い浮かべ、安全や災害復旧、防衛に税金を多く配分する児童が多かった。

学習の後、「税金が減ればいいと思っていたけど、社会にとって必要なお金であるということが分かった。」「税金を正しく使ってくれるかどうかを考えて選挙をしたい。」といった感想が出た。



おわりに

この学習を通して、児童は、自分たちの暮らしと政治が密接に関わっていることを捉えることができた。本単元の学習後、児童は、「困ったこと（災害や争い）が起きても大丈夫な社会になってほしい。」「みんなが安心してらせる社会にしていきたい。」「戦争をすることのないように、他国との関係をよくしてほしい。」といった願いが出ていた。そして、こうした願いを実現し、望ましい税金の使い方をする議員を選ぼうという意識が高まった。あまり身近に感じられなかった政治のことが、学習をすることで、少し身近なものになったようである。選挙権年齢が引き下げられるいま、児童には、より政治に関心を持ち、正しい情報を収集し、主体的に政治に関わってほしい。

「買えますか？買えませんか？」 2年生算数

指導者 森 洋子

はじめに

2年生の児童にとって、日常生活の中の買い物で簡単に見積もるという経験は少ない。けれども、いくつかの品物を持っているお金で買えるか買えないか判断する場面はこれから増えてくると思われる。児童はこれまで、1年生の算数のとき、50円玉2枚で48円と47円のものを買えるかどうかを簡単な見積もりで判断する学習をしている。2年生では、1000までの数や10や100を単位とするたし算やひき算について学習してきている。本単元では、100円玉の枚数との対応から100円前後の品を複数買えるかどうかを簡単な見積もりで判断し、そのわけを言えるようにしたいと考えた。

実際の取り組み

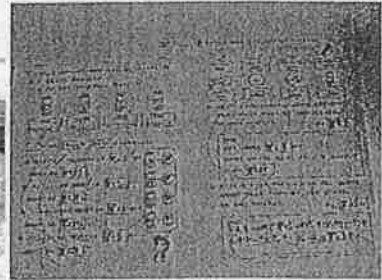
はじめに、絵を見て気づいたことを発表させ、ジュースを買いに行く問題場面に興味・関心を持たせた。どのジュースが好きか、普段はどこのお店やどんな販売機で買うことがあるか、何円程度のジュースを買うことがあるか等、自由に発言させた。次に、300円で同じジュースを3つ買うという条件で、どの値段のジュースだと3つ買えるか考えさせ、そのわけも発表させた。最後に、400円で97円のパン4種類を1つずつ買うことができるか、また400円で105円の食べ物4種類を1つずつ買うことができるかという練習問題に取り組みさせた。

おわりに

買い物の場面の問題で、300円を3個の100円玉とみて考えさせ、98円のオレンジジュース1つは100円で買えることに気づかせるようにした。1つが100円で買えるかどうかで考えるとどんなよいことがあるか問かけると、計算しなくても簡単にわかる、わけが説明しやすい、お店でもすぐできるなどの感想が出てきた。まとめとして、1つが100円で買えるかどうかをもとにすると簡単にわかるということを確認した。ジュース以外のものを買う問題にも取り組みさせ、いろいろな場面を想定した数の範囲の見積もりの素地を身に付けるきっかけにすることができた。



《授業の様子》



《ワークシート》

買い物へ行こう！～6年生修学旅行より～

指導者 大西 圭司

はじめに

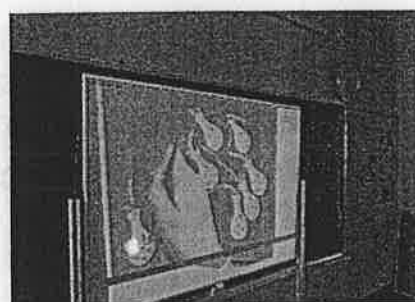
小学生にとって修学旅行は、学校生活一番の思い出になると言って過言ではないと思う。その中の楽しみのひとつが「買い物」である。これまで「買い物」については、3年生の社会科や総合で学習した経験はあるが、スーパーや小売店が少ない和田の地域性から考えると、お使いに行く機会も少なく、「買い物」という経験値は決して高くはないのが現状である。実際に修学旅行中の買い物場面では、思ったような買い物が出来ず小遣いのほとんどを残す子や無計画に使い切ってしまう後から困る子も見られた。今回は、これまでの様子から「上手な買い物の仕方」をテーマに事前に買い物計画を立てることとした。

実際の取り組み

まず、どんなものがどんな値段で売られているかをリサーチして、紹介することを行った。インターネットや昨年までの買い物中の写真を活用して、買い物が出来る場所や定番のお土産、最近人気の品などを確認した。

次に、誰にどんなお土産を購入するのか、また、旅の思い出として何を購入するのか、値段はいくらくらいなのか、「買い物予定表」を作成した。

修学旅行中の買い物場面では、予定表を確認しながら、実際の品物を手に取り、価格と照らし合わせながら買い物を楽しむ6年生の姿が見られた。



最近人気のお土産(しゃもじ)

品名	単価	数量	合計
しゃもじ	400円	40個	16000円
...

買い物計画表

おわりに

修学旅行に向けての事前学習の一環として、買い物計画を立てたことは、実際の場面でも混乱が少なく、スムーズな活動につながったと思う。限られた時間の中で、より買い物を楽しむためには予備知識を持ち、その場で取捨選択できる手助けになったのではないだろうか。

一方で、購買活動に有効な地域と言えない和田では、今後も「買い物」という経験を積ませていく意図的な活動を仕組んでいく必要があると感じた。例えば、遠足のおやつ準備は、保護者と一緒に買い物に行き、お小遣いをもらって自分で購入してみる。また、算数の学習で、買い物場면을想定して活動してみる(お店屋さんごっこ)など、取り組んでみても良いのかもしれない。



校長室に買い物へ行こう！

～おこづかい帳を活用した買い物シミュレーションを通して～

米子市立和田小学校

文責 大西 圭司

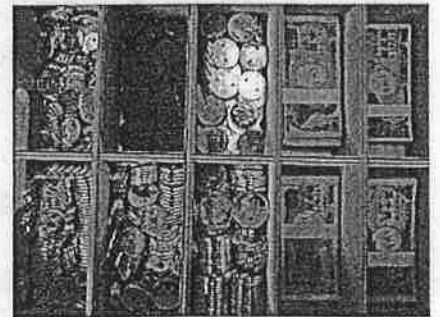
はじめに

最近、和田小学校周辺の生活環境が大きく変わりつつある。新しい道路の整備による区画整理や信号機の設置、スーパーの閉店による購買活動場所の変更などがそうである。子どもたちにとって関係ないようでも、少しずつ生活スタイルに影響は出ているのではないだろうか。

今回は、購買活動スタイルについて取り上げてみる。和田小児童の多くは、お使いの経験が非常に少ないと感じている。「無駄遣いをしない」とか「子どもだけでお店に行かない」といった道徳心の育ちも関係していると思うが、それ以上に近所に買い物をする場所がほとんどないことが大きな要因だと感じる。その結果、遠足のおやつですら、保護者任せになっている児童もいるのが現状である。金融広報委員会「知るぽると」で紹介されている「おこづかいきろく」を活用して、買い物シミュレーションに取り組むこととした。

実際の取り組み

現在、児童の実態に合わせて、個別対応した取り出し学習を行っている児童が数名いる。今回は、3年生の算数学習の流れを踏まえて、買い物シミュレーションを実施することとした。以下は、その様子である。



財布の中身と相談して



どれにしようかなあ



店員さんに代金を払います

毎朝の校長室での買い物シミュレーションを楽しみにしている様子は、2人の表情や買い物する姿からも伝わってくる。楽しみながら苦手な計算もしているようである。

おわりに

和田小の児童もやがて卒業し、中学校へ進学する。また、その後も一人一人がそれぞれの人生を送っていくことだろう。いつか自立した大人となって心身ともに心豊かな生活を送るためのひとつとして、購買活動は生活から切り離して考えることはできないだろう。今回の買い物シミュレーションが、その小さな一歩になることを願っている。

